

卒業生からのメッセージ



地方独立行政法人
那覇市立病院 外科病棟
がん看護専門看護師

大学:2期生卒業
大学院:博士前期課程6期生修了

吉澤 龍太
よしざわ りゅうた

大学を卒業し那覇市立病院へ就職、気づけば9年が経過しました。現在、私は外科病棟で勤務しながら、院内の緩和ケアチームを主にがん看護、緩和ケアに携わらせていただいています。そして、去年の冬、念願であったがん専門看護師となることができました。

専門看護師になるには、大学卒業後、2~3年間の大学院へ修学することが必要とされます。大学院終了後、臨床現場での実績報告による審査や筆記試験を受け、合格することで専門看護師となります。ここだけ見ると、私は向上心があり、志を高くキャリアを積み上げたようにみられますが、実際は違います。

就職して数年が経過し、慣れと経験だけで何となく看護師という仕事をしていた自分の生活に「果たしてこのままでいいのか?」という焦りを感じたことがきっかけです。振り返ってみると、何か熱中できるものを求めていたのだと思います。

さて、大学院で学ぶことで、私がこれまで何となくやってきた看護一つ一つの意味や重要性を改めて実感することができ、そして曖昧であった患者さんの心理や言動の背景にある苦悩を理解することができました。人は未知なことや理解できないことに対応する時にストレスを感じます。実際、大学院で学ぶ前の私も臨床で患者さんの苦悩や言動の真意を理解できずに曖昧な対応しかできない自分にストレスを抱えていました。しかし、大学院で学ぶことでストレスなく対応することができ、今では身体的・心理社会的に多くの苦痛を抱えるがんの患者さんに対しても積極的に関わることができるようになりました。

これから看護師を目指している皆さんにお伝えしたいことは、実習やそしていつか臨床で多くの困難な場面に出くわすと思います。それらの困難を乗り越えるために「学び」を続けることが一番の解決策であると思います。いつか皆さんと働くことができれば、共に学びを積み上げ、共にステップアップしていきたいと思っています。



名嘉村クリニック在宅ケアセンター
浦添訪問看護ステーション伊祖
大学院博士前期課程 進学

大学:8期生卒業

下地 葉月
しもじ はづき

私は3年前に沖縄県立看護大学を卒業しました。学生の頃から高齢者、特に認知症高齢者ケアに興味があり、認知症高齢者が幸せに暮らせる社会づくりに貢献できる人材になることが私の夢でした。卒業後、奨学金を頂いていた県外の急性期病院に就職しました。病棟では、認知症高齢者が拘束されている姿、慣れない環境に戸惑い不穏になっている姿、悲しそうな表情をする姿に出会い心が痛みました。しかし、その場面を回避するためのケアを持ち備えておらず、自分自身に敗北感に襲われる日々でした。

今の病棟で継続して経験を積むことで、認知症高齢者へのケアが具体的に展開でき、看護実践が向上するのだろうか?と疑問を抱いていた矢先に、大学院で学ぶ情報を入手しました。認知症高齢者ケアを専門的に学び、老人看護専門看護師になるために、大学院への進学を決めました。現在、博士前期課程 老年保健看護分野において実践老年保健看護について学んでいます。

今は仕事と学業の両立の難しさを感じる毎日ですが、認知症高齢者を笑顔にできる私になるため、日々努力していきたいと思っています。

これから看護職を目指す皆さんも、自分の夢を達成するために頑張ってください。

